

菊壽童

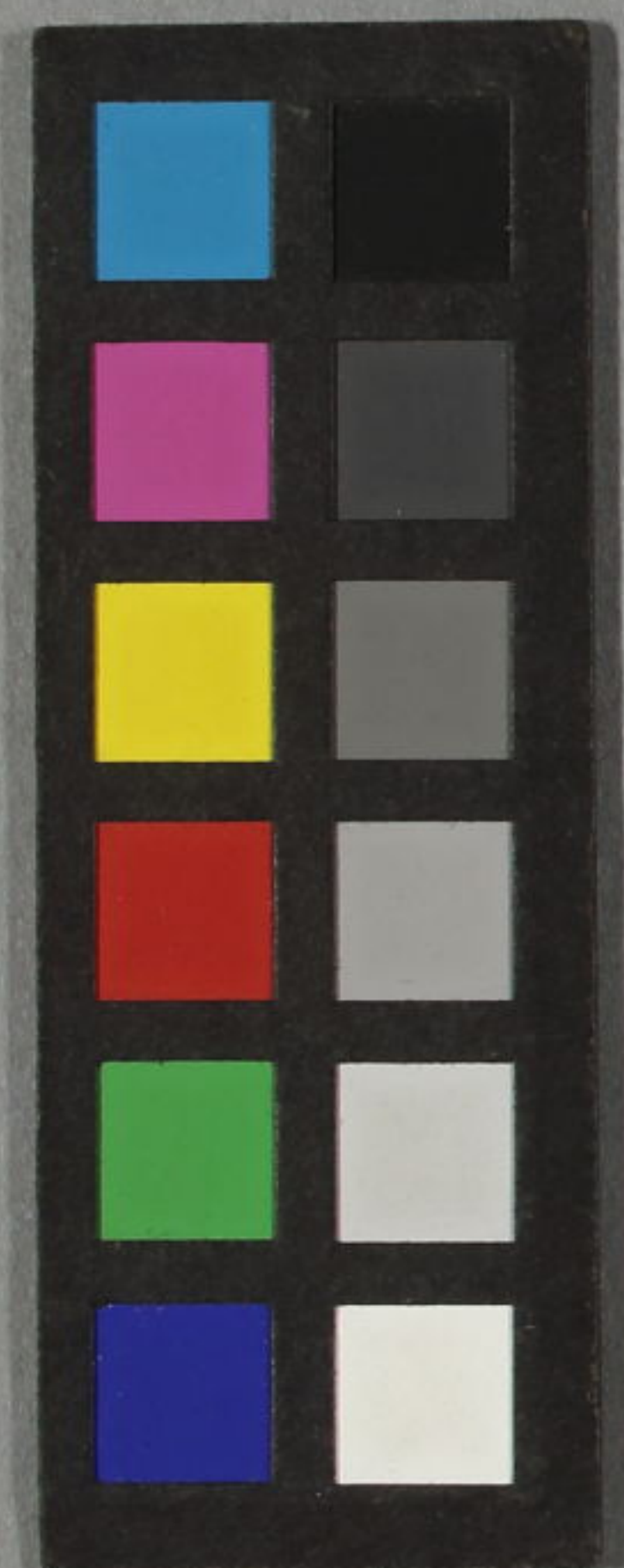
西



13

3719

4



菊童
雨殿
五編
九編



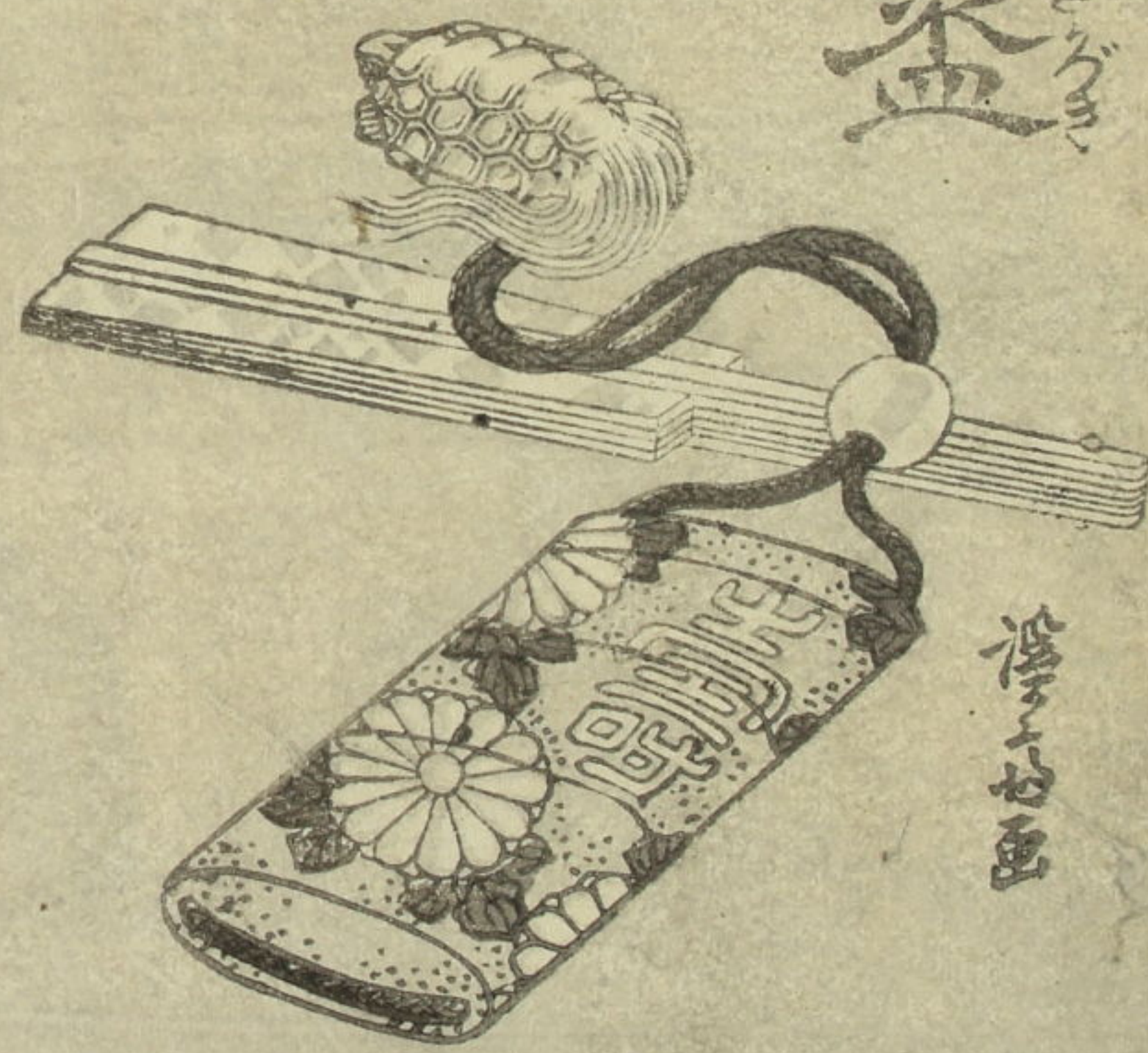
上

門へ13
3719
4

菊壽童霞盃
九編 上册

山東庵京山作
一陽齋豊國画

弘化四歳
丁未春新販



栄久堂上梓

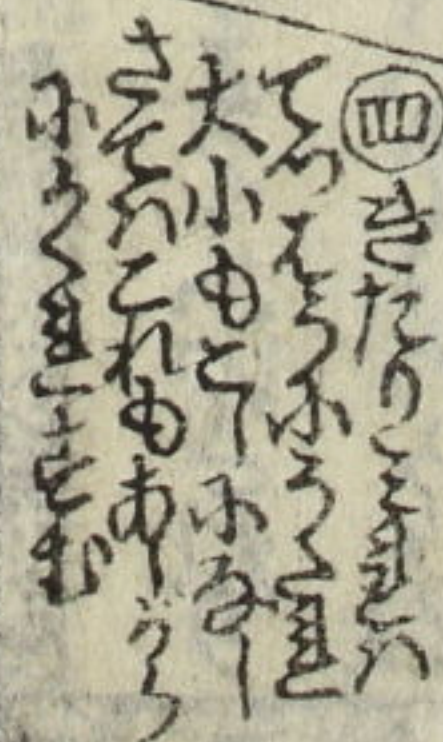
一 情

菊壽童霞盃をかむけて既九編のくきまふいされ
醒るうけに別もあふ作者のまきまされなり
菊の水筆のびるまきを作り菊もあらでまきをはまきまふいされ
きくまきまふいされかんと此九編と金本のまきまふいされ
と前より出する人物のまきまふいされなり
巻ふきまふいされ相後のまきまふいされなり

丙午菊月ふくき日 山東庵京山

未春
新板

弘化三年丙午仲秋稿本
同初冬上梓發販
東都書賈栄久堂 栄久堂

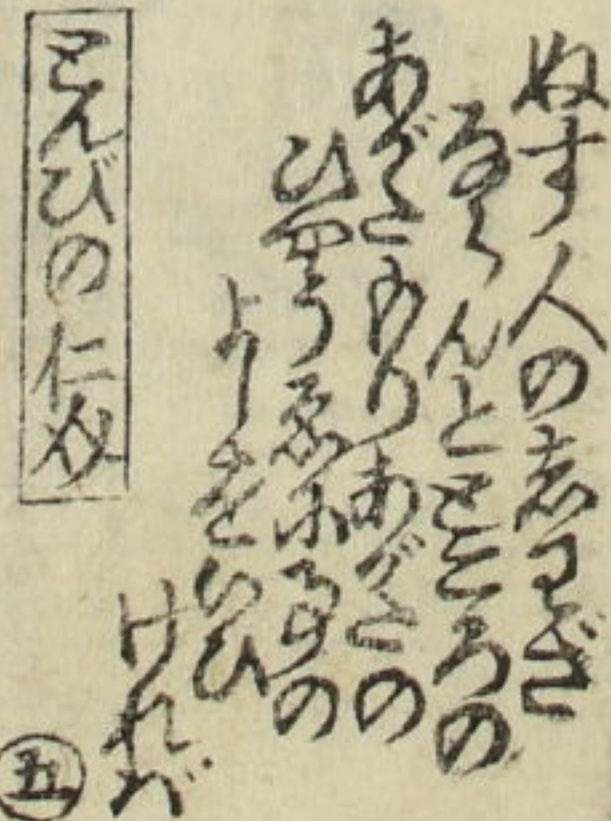


おぐのひやう

よき下ゆ

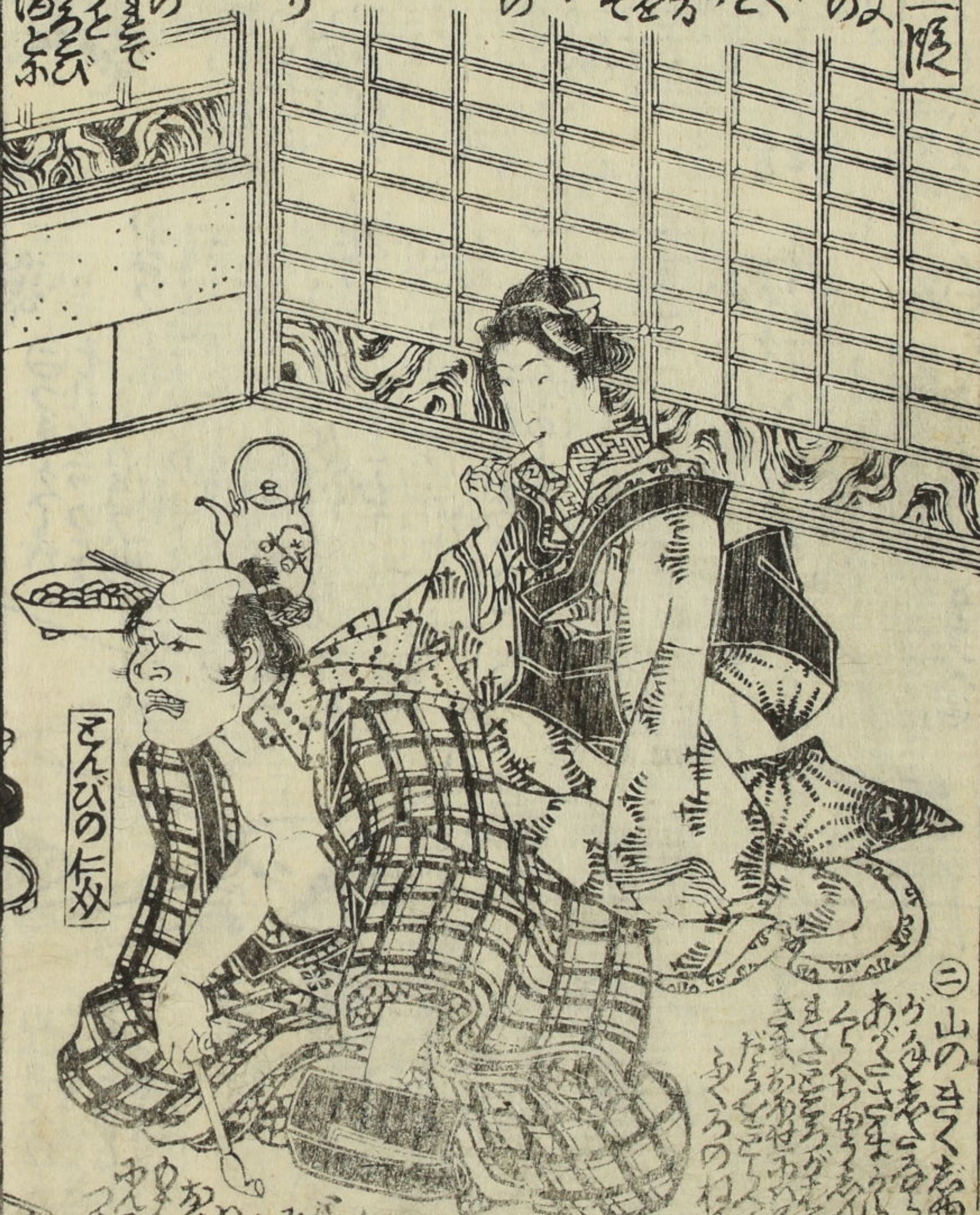
さるやとふつてのり
一年い菊寿だちが
おぼろりの八弟づ
さはすうこほそて
久めの奴を梅あや
うき金とたままら
八弟の心ゆるめれ
かく老たうちかた
まむあけ山つな
ゆるととのみくら
八弟ハ久めの奴を
えうより附う
けらいとまて
ミウこあつけんと
なりひにこそを
はくそあせめけん
欠めの奴の者ん
たち上より附ひと
むすめよめぬひを
菊寿だちならぬ不
人あぢいとしとある
わかつ山をせめあ
るるふにさるゆゑ
ひめをうをひか

②つぎうへに
 それをツのさう
 としてききえんゆ
 かみえとまうふは二へあが
 せしふよりせわぐさそち
 ざうなるたびるまひ今ありの
 八舞うそくするまじそ
 あうう山つま西こまきあひ
 のふとこのうちふよりそむ
 か橋をつれてあうう山へけのぢ
 かくしそむるどかふらりてあやえ
 けりききえんのちより時ぐさあふ
 佐上の国へうされおひさる
 あふんどくわふより時をわう
 不世と菊寿へ玉かりする
 あいせえとあめの女ぢ
 ぬすそちりてかま
 けふふちよりゆけ
 ぬけそちをわやえ
 ありふあううけり
 ○さて又けりあり
 一平さぎまをう
 あそくめの女を
 かのまぐいこんあそ
 さんとそくまきまどめ
 まきまへくうさのふ
 ちそどもく一平が
 きこるさるあふあふ
 かのひのこのまきまへく



六 けいこう
おんきふ
かどろく
ちやうせん
有りけり

そふふは
せんびの
にんげんか
かのあく
そのうと
ゆふが
ゆふとを
あつて
廿五日
うまひ
そのあ
つとど
久めの
なつか
おせ
人こ
りより
二車か
そふん
るい
つとりの
つたことまで
ぬけりと
ひちようび
いろと酒とお



とんびの仁女

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

④いつの年ころか白
 雲丸なるうしろ不
 そらう十箇のうら
 かしこき髪りる
 可きぬと
 ひさうでんが
 ちん登の女席
 かみぐる
 縁二股



六 妻め不白菊
 百 乃もどろこび
 さくぐわま
 ちどまきま
 ちよふゆも
 かさのりも



 人
 加ふ
 うち
 第四版
 加て

[illegible][illegible]

[illegible]

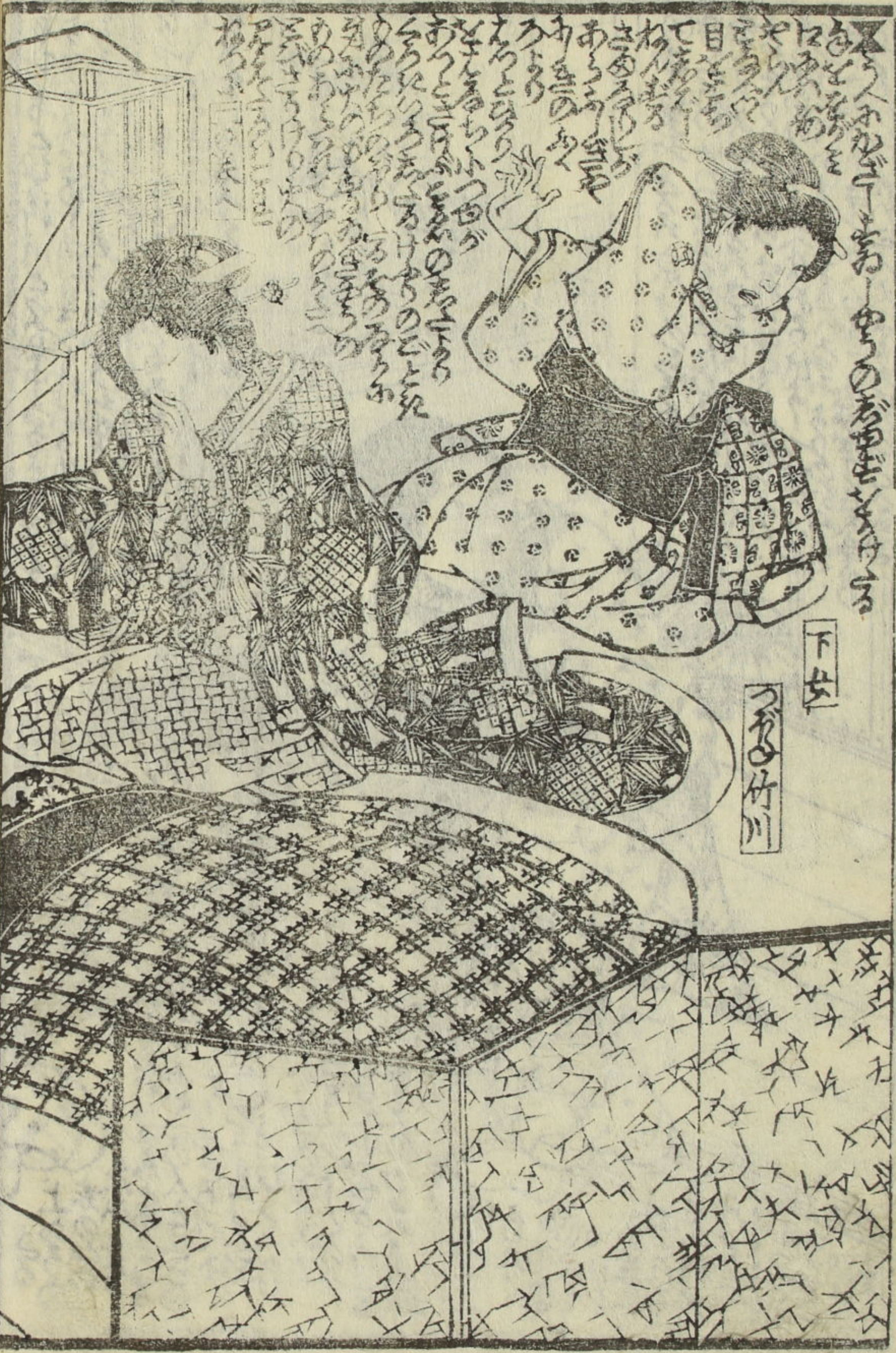
つたのどつとむる所川とくふ中なるは用多あり
てうはさへんをあらわすにまゝいれけりやあとう
でうまざるをそれもあるのだからちやうとして下
かまきりなりのところあるを上下之人
のちやつてききよめるものもあるやうにけし
せんたきさんのちやうちうまゐ。はけ川小づま
かぢをけりしよときててす女のみやう。むよの①

上あちの
 老のびの
 たふとて
 たりければちと申さる
 上あちの人はとてさ
 ちとてさめさるる
 のみれ竹川むのあり
 ちとてさめさるる
 ちとてさめさるる
 ちとてさめさるる
 ちとてさめさるる

第五十一回 白鷺めがさすもう天のふるるあはれ
 可うとくこれゆにあらふ市をこゑめゆかり
 とてとゆきちのさといへりわろの中なまそ
 とてわいとるまかたこのひきはよまぬかい

[illegible]

子竹川



白菊丸

[illegible]

第八巻
かくて小つゆが

四つ目
人の足る
ゆもあ
うりあ
るくさう
とのれ
まの白
くたも
うけな
るは
さうけ
り

れがめまらな
よも八ふのひ
六〇ワ屋を
人をお前を
るわうとこ
代せんつ
おまひのめ
入れくえれ
よやどの
入用らん
そちもあり
するどくま
であたくも
るけれぐさ
家をのあ
くあるけ
とのめ
かすろ
とすろ
くみ
くみ
くみ
くみ
くみ
くみ
くみ
くみ
くみ
くみ



その金
のてん

三十八



何れも
 考へ
 下さる
 はままれ
 へ竹川らふ
 あひんとありい。きりか
 京けの池うちあしうわ
 人のきんをそとよりを
 しそにもなひくつくさありそ
 人のやうにいゝものどわかちその系
 これへとそろむるすそぞろえ
 さういざせーやしぢりよつど
 きて、ヤアともやがえわ
 こごめのかうがとうま
 ちどりこれを母のうま
 とてのちうてる
 そあゆみの京け
 の人とならう
 ゐのきここのいん
 さらきくもくづんの

けエ
 下
 つま
 ま
 おお


 ③七の二
 よもハヤ
 ののぞろおぢうちう
 ぎちうてん白菊丸お
 つバカれがにへきさりあま
 めてをまへのちのめを
 剣の上のあまきりきうこう
 けまをまよあうのつあねも
 ちうさうさうめんをよあ
 ちひささひげらんらん
 むかひてももんさくらん
 とあづすそそまうじよ
 ちう上り肉かきさる
 とくけきま
 なも②

けふの
あまの
つひの
下の
あまの
あまの

白菊丸

をてあて、白く菊
九と五と八と入
あつちうとあつち
かやうとあつち
名どうとあつち
おんけいふ
こまきやう
もろく
のり
すう
むすめ
あつちうの
つねね

竹川

はまの母ふ
まどごさあ
竹川といふもの
つるねとあつち
なりなり知をわ
菊ののぐさう
はまの母ふ
たれにあらぬ
なみだりある
おもひをつづ

[illegible]

אברהם בן יצחק

菊壽童九編上をり
 菊壽童九編上をり



三よも八か
 めたるまき
 てまうく川の
 かまきり
 あまの山へ
 くるべなまの
 なるべなまの

京山作
豐國画

[illegible]

④ ともあつてゐるせん
よもハチケル今ま
先をその人まへと
おぼしめすなり

榮久堂刊行藏板畧目

永花道人骨文才物

首書
繪抄

此を分る所の百人二箇なりと
いふもたゞは事なりと正云は緒
を考へて言ひくまゝにみ通す人
といふは經より文からず也との

陳氏又十世

御詠深逢山鹿子

六編掇

右の源氏物語より冬に於て
 法をこそまゝに受け付るゝも極彩
 色ふなりしまの四子極彩に
 なるは四つゝひ物未だ今上京の
 御法より求めぬ境を
 但冬に枚攝
 はと入

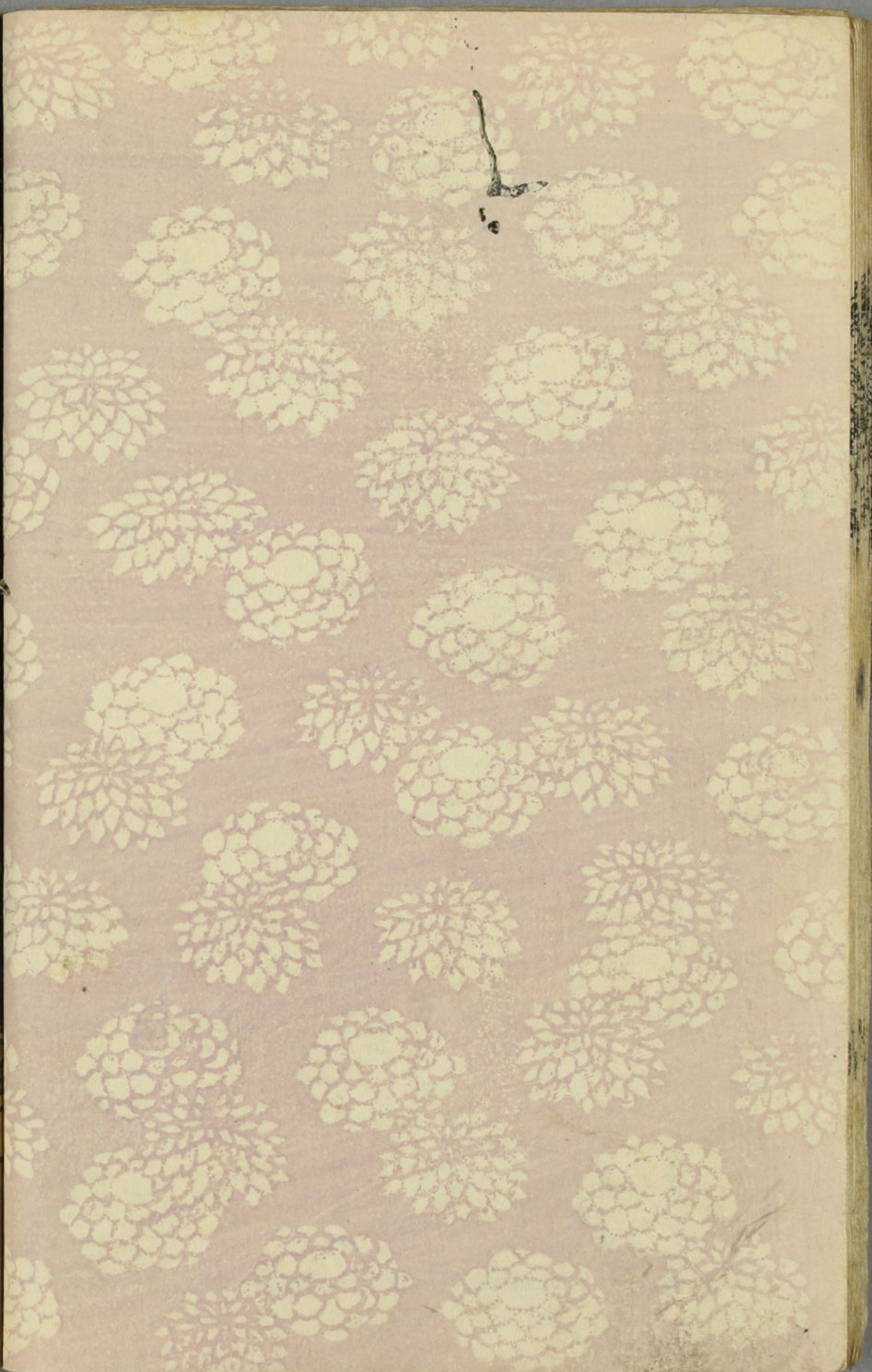
はにけしとて人相を種々作り
てかのおまへはもめたる旅衣を
さるゝとて倒しの葉井深き
詠向ちまじりさび春城のくれを
目まよふこれねかりとて世な

縁結ゆかりむすぶ妹いもうと弁はな双六ふたごころも
とらふかくくちの男やま歸の和合など
えぞとてそのおせやくりとも
そのおもひもそとくの空をめぐり
とりおさういとめづるなり双となり

書肆

江戸より町お名ぞ橋角

山本平吉梓



菊壽童九編

下冊

京山作
豊國画

弘化四年

丁未春新刻

山本平吉販



九編
菊壽童
下冊



いふやうなつらさがある。かまへ
いふやうなえきあつたのが、
はやくのまんぢくを食ふが
いふやうなとちやうど菊ざんぞう
よめ時が○

[illegible]

菊壽堂

(四)
 上りへん
 へぬる
 毒うい
 おもひや
 まんとし
 ぬけま
 すのこ
 くのか
 んと
 れ
 うら
 を

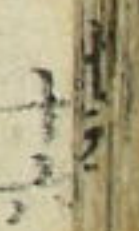


甲上下の
 六人の
 川が
 やまの
 やど
 あか
 ひろ
 あき
 つと
 大
 まる
 六人
 うら
 あさ
 の
 の
 の
 の

[illegible]



卷之四



This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor creases and discoloration, characteristic of old paper. There is no text or other markings on the page.

第十五

子れうひびを

LIBRARY



不爲

時つとあふ

[illegible]

[illegible][illegible]

右京山作豐國画

右京山作豊國画
未^レ未^レのま^レち^レう^レて^レ牛^レの
お^レろ^レま^レり^レあ^レね^レび^レの
田^レの^レ上^レに^レ戸^レも^レあ^レる^レ二^レ
京^レの^レま^レち^レう^レて^レ牛^レの

きんぎょのきんぎょ ①

きんぎょのそと(一)

● ちくしゅきさるあつらひのけいやくう五十六巻
 ● 極上くわろの雲のう六十四巻
 わやふま成りこめむろへ
 ゆで

京山作
 豊国画
 貞園
 菊寿童全部終
 宋文堂書

二柏ちやうををううま大人小兒より人つて
 用ひて長壽する仙やと云ふ●廿二の年
 男大老やうやうやう丹一五文やうやう
 スト廿五の年以上やうやうやう男
 かなるやうをのうくともたのやうやう男
 こととまやうやうやうやうやうやう
 まるやうやうやうやうやうやう
 ちやうやうやうやうやうやうやう
 ちやうやうのうやうやうやうやう
 ちやうやうやうやうやうやうやう
 ちやうやうやうやうやうやうやう
 極上やうやうやうやうやうやう
 ちやうやうやうやうやうやうやう
 ちやうやうやうやうやうやうやう

二笠亭仙果作
編歌川貞秀画

九編山東菴京山作
十編一陽齋豐國画

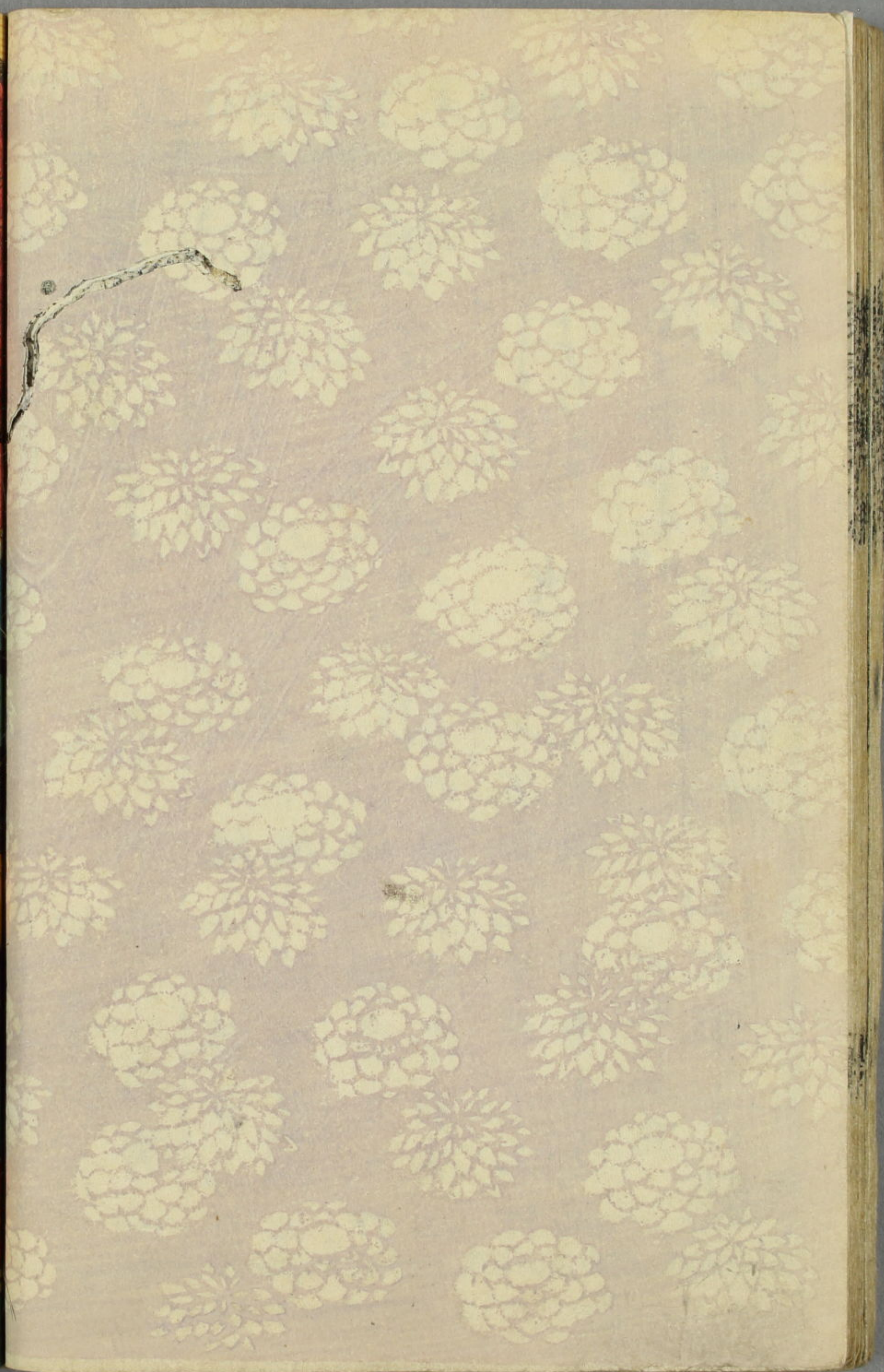
三編 玉蘭齋主人作
四編 五雲亭貞秀画

五編 山東菴京山作
六編 一勇齋國芳画

甘んじやう
 四つ子の葉 美艷仙々香 包四十せん
 花のうら
 花のうら
 黒油美玄香 四用は如村
 坂本氏藏

地本錦繪
山本平吉版

江戸町親父橋角



菊壽童十編上のまゐ

全部めづとく大尾

八十翁京山作

一陽齋墨國画

江戸町親仁橋
榮久堂山本平吉

板元口上
所子様方万壽く作機端能く
作庭守に抗ひ能く菊壽童作をいひ
年々出板仕難有は金守なるは道々十人
と金守のいひ出板仕の初ん人のいひと
大守のいひと作のいひと守のいひと
名守のいひと守久堂と守国
守久堂と守国



五紋国入門

草さじの沿革

京山按 竹取物語の源の順教氏の作とあれが今より

千年ふりさかちるそのち二百年ふりさかちる

●うす●漬松●住吉●源氏物語をいひ

とも根る事の作り物語されが今より

今の雅なる物語を中ふたま松物語

とまきとに物語をいひみくかきたる物語

されが今より州さじにあらるゐるまゐり

さそちるむの四百年あ足

利時代ふりさかちる所加さじとて

廿二種ありま村・白雲姫物語

●とみるる●物語●松風物語をいひ

おのくさ絵あり此るおもしろい本

もちひきまらるゝ今の草さじといれり

そまきまらるゝ世の中ふりさかちるのちの①



①おもしろいまゐる

やういふる寛

文のそ

ふい

かの

かか

さじ

の中

のち

を

そで小冊

とてまゐる

子どもいふ

さあといふ

そのちへ

今より六十年お
天明の比名なき
草さじの作者
京山若かりし時
あひみー京傳
公羽の友だち也

百二十年いせの正徳享保のころ
江戸ふを後助五郎清春と
絵師作とあるて子どもの耳より
たる牛若金内小ざあとのまも
あつく作らるゝやうなり
上下二さうおと一年と

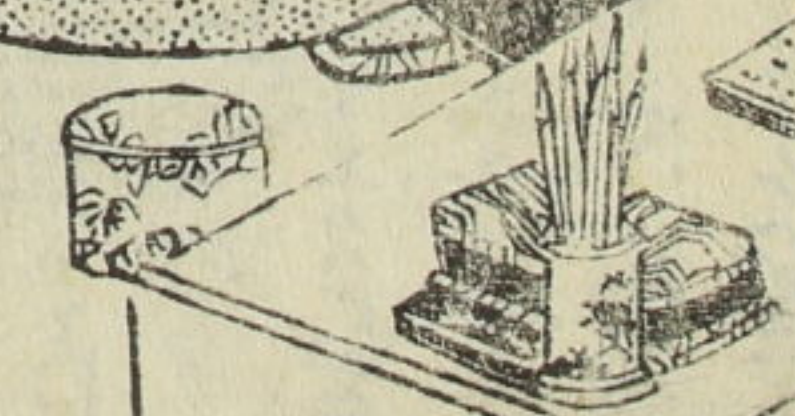
わ作をせり見ふるはじの二変
あるよりかくてのち五十年なり
たてぬ和のころふのりきり

春町作とて●金と先
生業花の愛とふ
上下二さう下まの
銭作抱ふふや
で草さじ二
変と



恋川春町

芝全交



時の作
者のとら
まけとく
まきとのとら
つり中に京傳
翁が善玉悪
玉今様人の
おのころ
銭作廿五年おと
やまの文化の
人との作者か
不盡とての
やまの草さじ
かたうち物と
京傳翁八百
おと

通笑



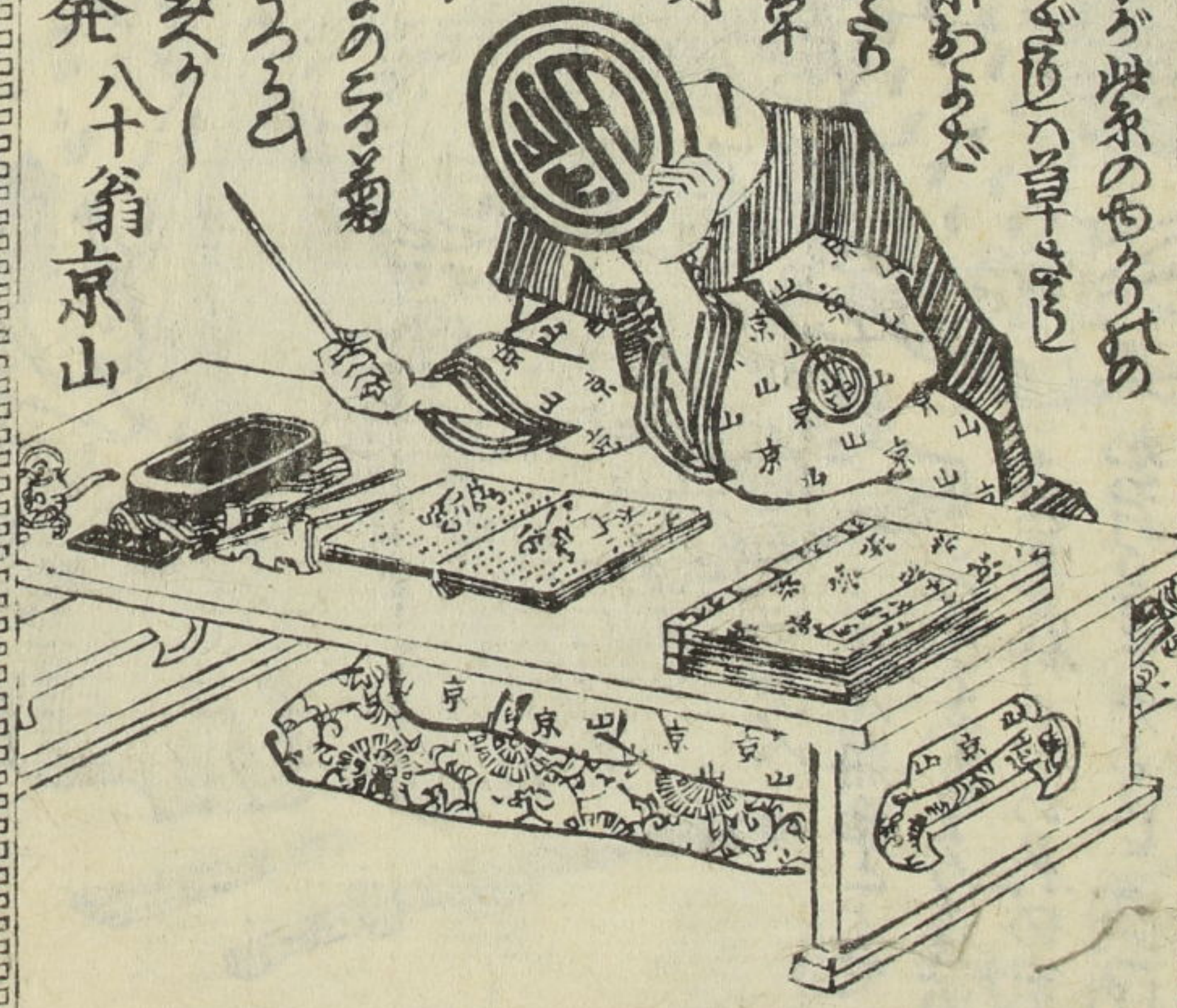
つぎ八冊物とて
大ふとあり
三馬・柳亭の作の風
わかれの星州

四葉あつたつて近きより柳亭の紫のちりしの
 りりけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 中の派氏物語とあつて柳亭の才あつて
 ちりけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 よものちつてきつてあつて編とあつてわつて草まじ
 さりけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 童も今の十八年いふ天保二年卯
 未初へんといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 めけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 あつて草まじといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 菊童といふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 たつて草まじといふ一つきたるのみる人あつて草まじ

嘉永元年 五月初本 西春新発 八十翁 京山

菊寿童謡 五十編上巻

十次へあつて草まじ



才一

さるやとふく米のぬつたのかたが
 ちりけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 立のきつてあつて編とあつてわつて草まじ
 一つきたるのみる人あつて草まじ
 やうふ十次へあつて草まじ
 よものちつてきつてあつて編とあつてわつて草まじ
 さりけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 童も今の十八年いふ天保二年卯
 未初へんといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 めけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 あつて草まじといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 菊童といふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 たつて草まじといふ一つきたるのみる人あつて草まじ

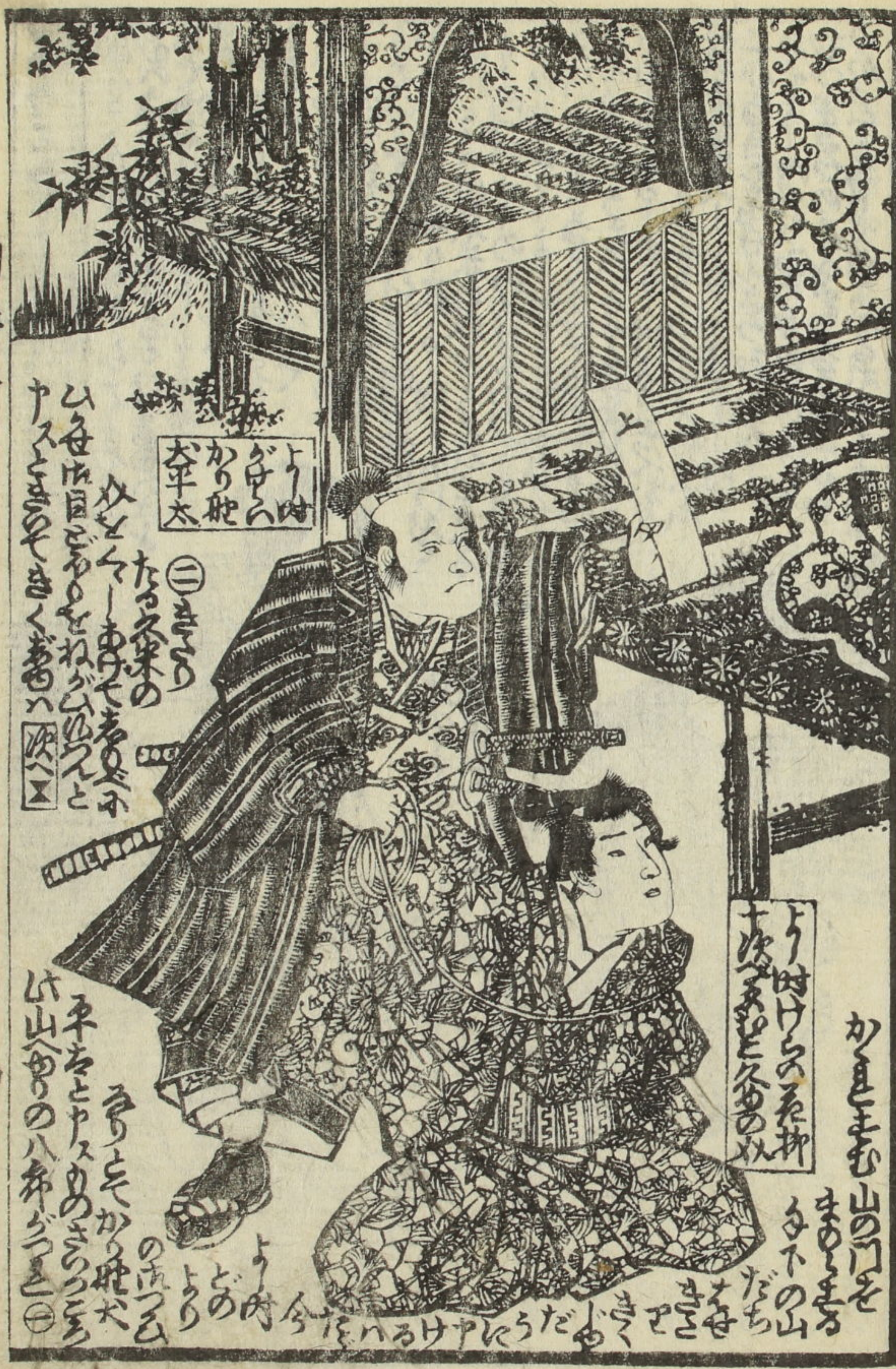


仁丹の四葉
 けりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 のちつてきつてあつて編とあつてわつて草まじ
 さりけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 童も今の十八年いふ天保二年卯
 未初へんといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 めけりといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 あつて草まじといふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 菊童といふ一つきたるのみる人あつて草まじ
 たつて草まじといふ一つきたるのみる人あつて草まじ



才之匪

王たい
 めんき
 よう
 兄あふ切にせし兄弟
 が父宗尊をより内
 がちうといふて小山ねえ
 ふ打せうといふあわの
 かてめううみそをさ
 梵とうり内ふたうてきり
 ころるかふこのまより二つ
 のかきおありてより内
 るうなりなるここのみ
 とどみやうきうなり
 きくきくたうてふ父
 のなりやう
 うーあうて
 よきひめのと入れあら
 せうのんきくも兄
 きひめをうめつてきく
 あり大なるきくづれ
 時よりのめとつれを
 かん



かきまむ 山の門を

上
 下
 時
 け
 の
 表
 押
 上
 下
 時
 け
 の
 表
 押

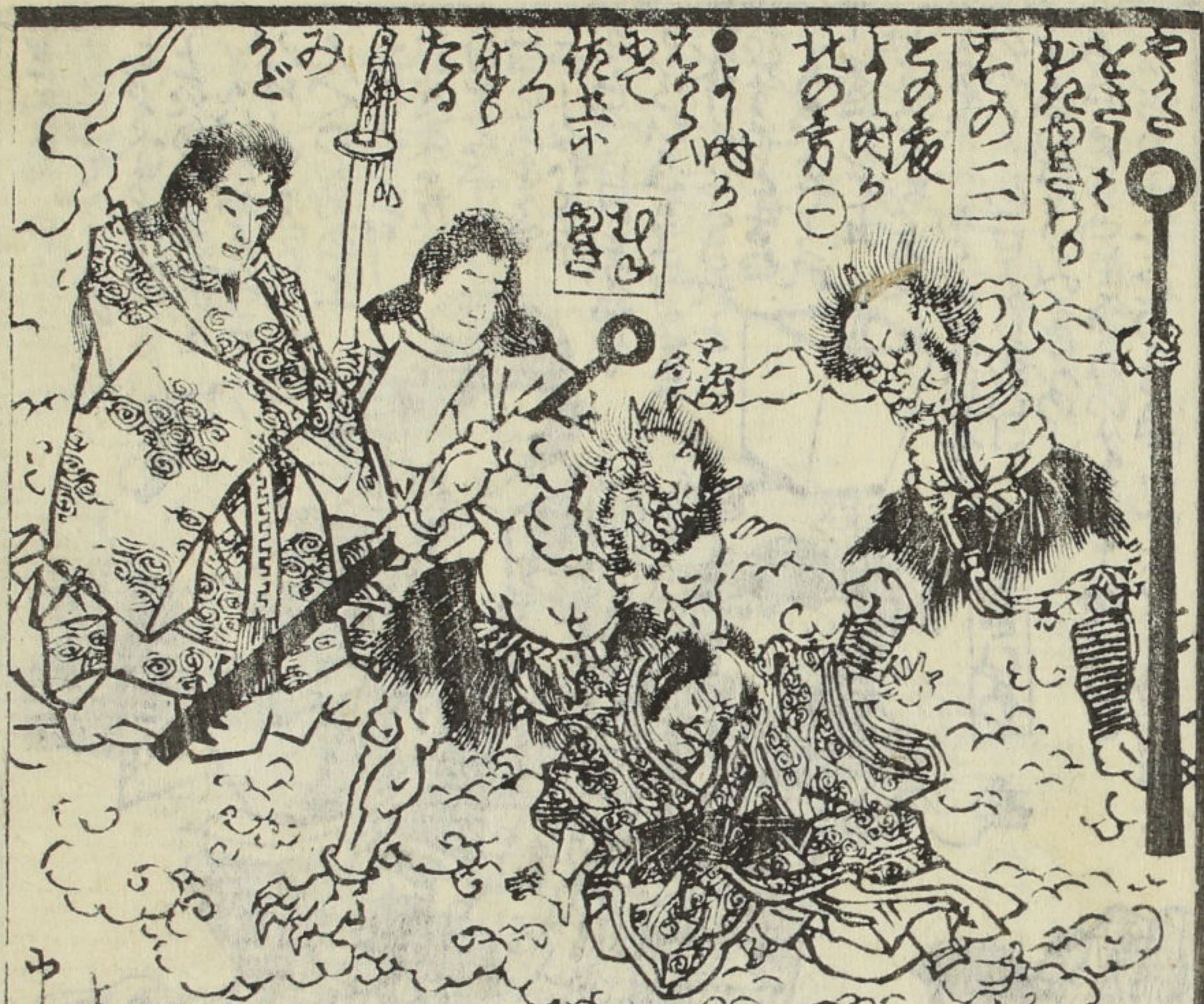
まの下の
なま

上戸
子
か
り
太
平

太平太
 三きり
 たる米の
 ひとくちあてありふ
 い各所目どありをねぐひゆえと
 やすきまきくあふ
 次へ

のつて
手とてから蛇犬
車をとつたものさつて
いふものの八分づつとて

時
 の
 ち
 の
 ち



中
 二
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

③
 今よりわかれのあき
 のふねをさるゝまじ
 りのこころもてつもの
 はなやうにわかれち
 つける上のらう入
 入且あきなるは
 もまたあきなるは
 ベのくさのつゆ山は
 のとりにやんぞらん
 うらのわすれ
 梅をたてよきを
 なつそよ

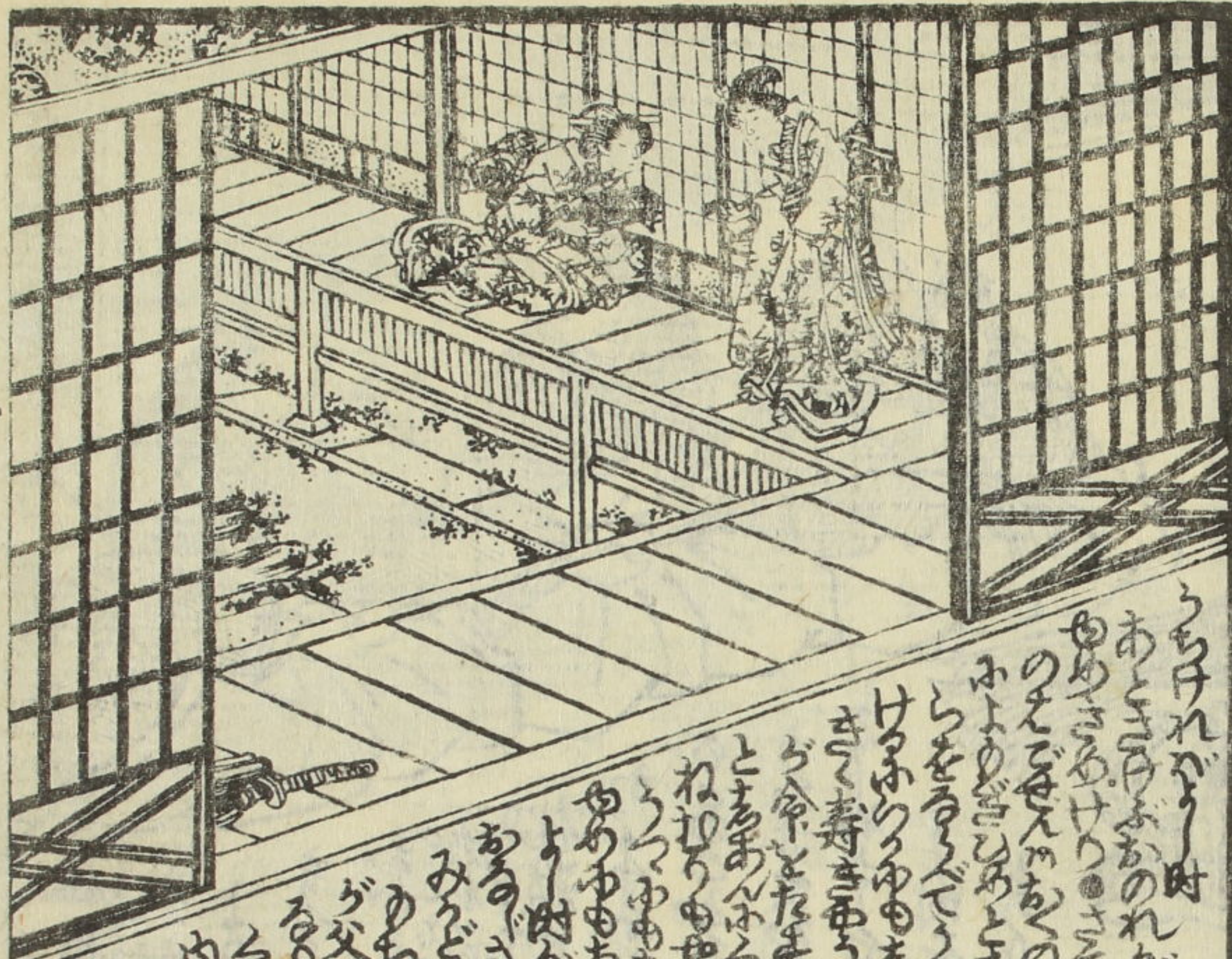
時ろ
 やろ
 らひ
 一万
 あきの
 んど
 まし
 より時が
 みつち
 あいあ
 ときへ



才五段 い教より時うさうい申て依後が
あまふじなりなる中のみぞど
おんそめん佐をめてやうきよあらせ
おひさうりみづごころ

おきたるのめ方より
ナギあひ申てより時
く又あらせけり
●さてそのより時が
あふ地どのあふ
より肉とこそええ
そめんのあまふ
ひきはあけれかみど
ぬいののやうげん
まさぐねめつけ
おひそめつら
まろぐうさ
あるものあり
むちうづー
かこみひ
とてあふふ
くら
ぐいの
あまのへ
とあはて

三 あそを
せうぞと
どもおぢど
ろくその
をりしも
より時が
つたのらう
ぢよあのてあ
ぎうきより
なせきさうら
君ゆくのあん
ふやといぬく
しらせ入ときと
るきのえかぢら
ひめのろともを
つけえまざり
附血てをえき
ひきまけり



うつけれぬ時
あまのふたりのねがひもあま
めいさるけり。さそるき
のそでせんちくのねす
ふよのきひめとまき
らをるるてうもは
けふつゆもあて
きて壽きあらうぞ
う令とたまはん
とまあふおれて
ねむりもやうき
うつものあるん
ありやもあしき
より樹かありと
あるさきあて
みづどのあまをせを
めちたつらきく壽
ぐ父の中るごんむねだ
るのまきあらうき
このそでけむりの
内ともするなり
そのときのかもとまき
あるとさけふあかりなる
よのきひめ「母」のふ①

るきのと
ろろあ
さそん
依後あて
かここ
あひる
みづどの
あんち
るうんと
あた
ろくも
かる
あま
母上も
よのき
ひめの
さそる
こそを
あまの
けり

[illegible]

③ きのびきま
きりかへぶきり
けりてきりかへ
久米のきりかへ
きりかへきりかへ

おね
あまの
うの
むす
そのけり
そのけり
下のきえ
あまの
あまの

小猿の

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文十抄

首書
此書はたゞの百人一首ありとの
うも有るあやまりを正しおの痛
志やを正しくあらはしに画を加へ
ておの心を正し分りやすくせよとの

源氏平田帖
極彩色錦襖

御詔染逢山鹿子 六編揃

太い源氏物語より、よ中ちゆうに帖てうとものぐ
く強きやうが死しそれ、うおと附かしてをむか極きやく彩さい
色しきあり、こそれ、こ赤せき子し極きやく方ほうにううぎうぎうに
を國こく造ぞうつういりのおまは古今ここんと最さいの
御ご流りゅうちうり、ちう東とうの市し換かんてらてらる

但六十日校勘
はたき入

教訓寶揃 初編近刻

東都錦繪所

江戸より町おやぢ橋角

山本平吉梓



三

ににに
ありあう
よめい
みえい
ふんを
あまを
うけい
ふか
ふか
ふか



(三) 云々云々むさうをさうむらん
らるゝまはるひ今代たるふ
ありてをさうにカ一やぐり。小様
のたまはるひやうありの世のそよ
かたきせむもふびなうとあふ
とくこふつて立きかけり。(三)

八
八 ちふ久めのみちまゐり
あふまもしんのあふ
ぐふふがふれがふ
さふんふのちふもさふ
さふふふふふふふふ
男ふのちふ久めのみち

[illegible]

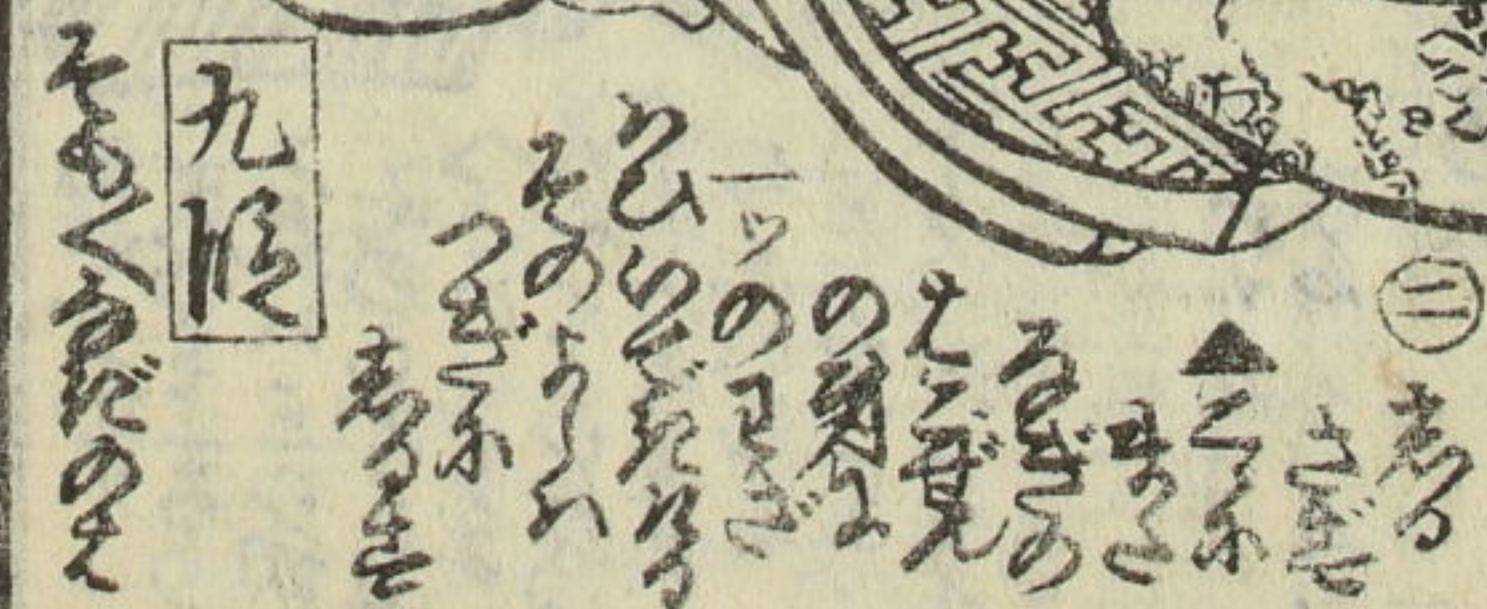
あま
とて
うの

[illegible]


おどかしの
あや上り
おれバニの切
るのけんを
つこの芽な
くなくちなる
まきぐさをはた
てぬのひま
さてふゆのみ
もくつぬえん
とあらうしき
なむくらん
かれきてト
くらうらなり

その二
たれるうんと
に直をこれバ
あのひよりする
るぎのえごえ
さうじるとあ
る久めの心を
をめかけし中
小車する **次五**

さきのお
とせん



茶の心



② とうのちあひだにやうな
とうちつとてりやを
さうてしをたじり
▲かてとちうま
ねちのけり



よきま
ねぢけ

のそお
の時入



十
五
六
七
八
九
〇
①

のからうへにむすめよのぎ
 乙女をめあひせきくおあうかど
 白ぎく丸どもより附うせそ
 のちのやうくふかきまひあき
 うつ又かのきくうのつ不
 わぐ依ぶよろめち
 きさうさうより附
 ついたうのめん
 せんを(三)

よきま
ねぢ

くま
くちひ
たうの
みんせん
ありとらつ
かりるあ
えんかん
はうぶを
かきひくま
てをあらふ
はんとむんの
だであうと
りつりをさ
きたて

あまのつゆもあてたまふ子
の方へさう上にとたをけが
よあつてをえきりある日
まゝこのくみりま
明神へ成さんけのこころ
おきそせきたる
とわど

まゝ子の方へ
つゆ女
松風

さうか松風といふ人
むづかしいつてあをき
がえしのすめあてきま
あまのつゆもあてたまふ子
●松風がまゝの用でけし
えときまゝあるふの用でけし

兎とききすゝふるふの店用でに

又袖を引ればちやうどおんなのこころ
かまへるのうしろのうしろのうしろ
さうなまへつちやうどおんなのこころ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ

十一

おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ



四

おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ
おんなのこころのうしろのうしろ



五



① ところく物ごうけれ
がまきさの方ふひは
あられ時のみりて
ねむふふとてまろし西を毎う
だのぞあゆまれちむひおたか
あたまをつせむひるものさせんも
ちのごとくあられはち
● さてまくとあらむひさぎ
と名のり日暮れぬむひ
まさと名のとて又
とうちかの山
ありなまたん
のうちかの山かん
方へあけけんたて
小ぢをまたひたて
ありひのとて

[illegible]

●より内のあるところから
やま因京より下りてあるを
つたるものをもせんが故を
あるしてあるはけり
やま因京より下りてあるを
つたるものをもせんが故を
あるしてあるはけり
やま因京より下りてあるを
つたるものをもせんが故を
あるしてあるはけり

[illegible]

菊壽堂十編大尾

小と申すは言ひ菊の①

十一
編編

柳亭種彥作
一陽齋豐國画

大十
尾編

二編

大七
尾編

初編

四三
編編作

三編

榮久堂

江戸芳町親仁橋角
山本平吉版

